資料1

第１回佐久市浅間地区小・中学校あり方検討委員会概要

日　時	令和６（2024）年６月４日（火）午後 6 時 30 分～8 時 25 分
場　所	佐久市佐久平交流センター　第５会議室
委員出席（敬称略）	戸塚榮次、山口万夫、今井文雄、磯貝修、山口元気、北山浩一、亀谷佳奈、星野克幸、井出健太、山浦裕治、須藤隆、森泉雄二、高橋幸彦、黒沢知博、藤澤直子、宮島卓朗、宮森伊智朗、大池明、金澤英人、神津利信（20 名）
事務局	吉岡教育長、佐々木学校教育部長、藤巻学校教育課長、小林主幹指導主事、油井課長補佐、大井学務係長、土屋教育施設課長、学校教育課井出、岩﨑

会議事項

（会議に先立ち委嘱書の交付）
1　開会
2　教育長あいさつ
3　自己紹介
4　佐久市浅間地区小・中学校あり方検討委員会について（事務局から説明）
5　会長・副会長の選出　→大池明委員を会長に、戸塚榮次委員を副会長に選出
6　会長・副会長あいさつ
7　会議事項（事務局から説明）
（１）浅間地区小・中学校の現状と課題について
（２）今後の進め方について
（３）その他
8　閉会

委員から出された主な意見（要旨）　（「⇒」：事務局からの回答）

＜（１）浅間地区小・中学校の現状と課題について、（２）今後の進め方について＞

・浅間中学校の現状は、生徒が多く、建物の構造上、一つの廊下に生徒が集中してしまい、過密状態になっているため、安全面に心配がある。小学校の対策を講じたとしても、その子どもたちが浅間中学校に上がってくることを考えると、将来、どのような状態になったら、どういう対策を講じるかというトリガー設定を考えるよりも、別の対策も考えていく必要があると思う。

・佐久市としては、今後、この佐久市の人口を増やしていこうという考えなのか。
⇒佐久市としては、佐久市の発展の活力を失わないために、人口を増やしていきたいと考えている。

・子どもたちの人数が増えていることは有難いことで、子どもたちが、将来、佐久市を出て、また戻ってくるような地域づくりも必要だと感じた。特別支援学級の人数がかなり増えていて、ここを支える仕組みが必要だと思った。今後、浅間中学校に一極集中していくということであれば、中学校のあり方も考えていかなければならないと感じた。

・資料にあるメリット、デメリットは一般的な状況だと思う。大規模校だからといって、子ども一

人一人に目が行き届かないかというとそうでもないと思う。ただし、物理的な面では様々な制約が出てくると思う。

・小規模校ということで、例えば、資料にある切磋琢磨する機会が少ないかというと、工夫次第だと思っている。ただし、教員数が少ないので、やりくりが難しかったり、一人当たりの仕事の分担が多くなるといったことは実際ありうると思う。

・この検討委員会の準備会では、高瀬小学校についても協議されたのか。
⇒具体的に協議したわけではなく、これから議論を進めてまいりたい。

・今後、人口推計業務を外部委託するに当たって、市の今後の開発計画や周辺の道路の整備計画などが人口推計に大きく影響してくると思う。市として、どこまで情報を出していけるかが重要だと思うが、どのように考えているのか。希望としては、開発の情報を細かく出していただきたい。
⇒人口推計に当たっては、現状の開発傾向や、どのエリアで開発される可能性があるのかなどを考慮した上で、推計をしたいと考えている。また、開発の状況に応じて、幅を持たせた推計をしたいと考えている。

・資料の推計の中で、特別支援教室が不足している学校が目立っているように感じた。一つの教室を２つに分けて使っていることもあると思うが、単なる教室数の数字合わせではなく、現状を見ながら、子どもたちにとってより良い教育環境を確保する観点から議論する必要がある。

・これから教職員の働き方改革が非常に大きな問題になってくる。教職員の働き方改革が、この学校のあり方にどう影響してくるのかを考えていかなければいけないと思う。

・今、学校で何が課題になっているのか、そして何を改善していかなければいけないのか、それらをどう考えていくのかが一番の考え方で、そこからいろいろな対策の選択肢が出てくると思う。

＜（３）その他（これから検討を始めるに当たっての各委員からのご意見）＞

・中佐都地区の育成会では、小学校の先生の手を煩わせないように、事業の規模を縮小している。設備的な部分もあると思うが、教職員の人数が足りているのかなども十分な議論をしていただきたい。

・この資料の中で、高瀬小学校だけが他の地区とは違う方向であり、非常に危機感を感じている。高瀬小学校付近の幹線道路は、狭隘であり、交通量も多いので、子どもの安全のためにほかに幹線道路を整備してもらいたい。また、高瀬地域の活性化のために新たな事業をお願いしたい。

・現役の保護者や未就学児の保護者の意見を聞くような場を持っていただきたいと思う。

・学区を超えた新しい学校があってもいいのかなと思った。例えば、スーパー探究校のような特化した学校とか、浅間地区だけでなく、市全体で考えられるようになればいいなと思った。

・多くの声を拾っていただきたいと思う。また、この資料にはないやり方がいっぱいあると思うので、いろいろな意見を取り入れて検討できればと思う。

・学校規模が大きい、小さいではなく、子どもがどういった教育を受けられるのかが大事になってくると思う。通学区が決まっているのであれば、どこの学校でも同じ水準の教育が受けられることが大事だと思う。

・実際に学校現場を見る機会があってもいいのかなと感じた。

・小学校の特別支援学級児童数の増加は、すべて浅間中学校に影響してくるので、このことが浅間

中学校の問題をさらに難しくしている。

・佐久平浅間小学校については、今後、児童数が増加していくことで、工夫ではどうにもならない物理的、人的な課題が生じてくる。また、佐久平浅間小の過大規模化は、浅間中の過大規模化にもつながるので、浅間地区全体を見通した大胆な対策を考えていく必要があると思う。それには、多額の予算が必要になってくると思うが、教育施策の充実は、佐久市の発展にもつながると思うので、この検討委員会ではそういった議論ができればと考えている。

・中佐都小学校については、改修工事により、今年度から普通教室数が増えているが、少人数学習などで使っているので、もっと教室が欲しい状況である。また、教室を増やしたことによって、会議室が一つなくなってしまった。小学校の対策のみを考えるのではなく、浅間中の課題の解決につながるような対策を考えていく必要がある。

・高瀬小学校については、老朽化が進んでいるが、150 年続く、地域に守られてきた学校であるので、みんなにとって良い方向になるよう十分な議論や検討がなされるべきだと思う。

・教育は学校や保護者だけが責任を負うものではないと思うので、地域としてできることを考えていければと思う。

・子どもを中心にして、子どもにとって何が一番良いのかを最優先して議論を進めていければ良いと思う。

・今、学校が求めている教育は、１つの授業やクラスであっても、子どもたちがいくつかの場で学ぶことができる環境だと思う。この委員会の中では、子どもたちが窮屈な思いで、勉強するのではなくて、豊かでゆったりとした場で人間関係を結びながら教育活動を展開できる土台作りを考えていかなければいけないと思う。

・浅間中学校の対策については、一つの案として、中高一貫校の可能性を考えてはいかがか。中高一貫校のメリットは学力向上にあるので、屋代中高一貫校のように、実績を上げれば、佐久地区の進学校になるのではと思う。

岩村田小学校

資料2－1

推計値（ピーク時）

【表①】

年度	第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			第5学年			第6学年			通常		特支		全学級数	全児童数
	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数	学級数	児童数		
R6（実績）	3	99	9	3	74	10	3	97	9	3	81	5	2	67	6	3	76	1	17	494	7	40	24	534
R9	3	91	7	3	75	6	3	72	6	3	99	9	3	74	10	3	97	9	18	508	6	47	24	555

＊社会増減は考慮していない

現状の教室保有数（通常学級教室、特別支援学級教室として使用可能な教室の現状）

【表②】

	通常学級教室	特別支援学級教室	少人数教室	学年室	合計
保有普通教室	17	1	1	6	25
保有少人数教室	0	6	0	0	6
合計	17	7	1	6	31

(注1)保有普通教室は、通常学級教室として使用できる教室
(注2)保有少人数教室は、教室の広さが足りないため通常学級教室としては使用できないが、少人数で使用できる教室
(注3)保有少人数教室の特別支援教室6室のうち4室は、2つの教室にそれぞれ間仕切りを施して使用可能なため、4室としてカウント

現状分析①

通常学級児童数・教室数について

- 現在の通常学級児童数は494人、17学級で、増加傾向である。（表①）
- 現状の保有普通教室は25室であり、通常学級教室で17室（各学年平均3学級）、特別支援学級教室で1室、少人数教室で1室、学年室で6室を使用している。（表②）
- 今後、通常学級児童の増加により、通常学級教室の増室が必要になる場合には、保有普通教室のうち7室（少人数教室1室、学年室6室）について、全体最適を図る視点からやむを得ず、通常学級教室に転用可能と考えられる。したがって、現在使用している17室と合わせて、24室（各学年プラス1学級程度）まで通常学級教室を確保できる。
- 今後、児童数の増加が見込まれるものの、過去の推移から急激な増加は見込まれないことから、諸室を工夫しながら使用することによって、通常学級教室が不足する状況にないと考えられる。

現状分析②

特別支援学級児童数・教室数について

- 現在の特別支援学級児童数は40人、7学級で、増加傾向である。（表①）
- 現状では、特別支援学級教室として7室（保有普通教室1室、保有少人数教室6室）使用している。保有少人数教室6室のうち4室は、2つの教室にそれぞれ間仕切り等を施して4室分として使用している。（表②）
- 今後も特別支援学級児童の増加により特別支援学級教室の増室が必要となる場合には、対象児童の特性に応じて、他の用途の部屋を転用したり、教室に間仕切り等を施したりするなど、諸室を工夫しながら使用して教室数を増やす必要がある。

現状分析③

施設の経年（老朽化）について

- 平成28年10月の改築以来、7年が経過している。
- 築年数は浅く、劣化状況評価によると、大規模な老朽化対策や長寿命化対策を講じる状況にない。

学校施設の老朽化状況

建物基本情報														構造躯体の健全性						劣化状況評価					
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分 学校種別	用途区分 建物用途	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	耐震安全性 基準	耐震安全性 診断	耐震安全性 補強	長寿命化判定 調査年度	長寿命化判定 圧縮強度（N/㎟）	長寿命化判定 試算上の区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）
1	451	岩村田小学校	校舎	13		小学校	校舎	RC	1	571	2016	H28	4	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
2	451	岩村田小学校	校舎	14		小学校	校舎	RC	3	3,521	2016	H28	4	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
3	451	岩村田小学校	校舎	15		小学校	校舎	RC	3	1,262	2016	H28	4	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
4	451	岩村田小学校	校舎	17		小学校	校舎	RC	3	2,795	2018	H30	2	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
5	451	岩村田小学校	体育館	18		小学校	体育館	RC	1	1,430	2018	H30	2	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
6	451	岩村田小学校	多目的ホール	19		小学校	校舎	RC	1	336	2018	H30	2	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100

R3.3佐久市学校施設の長寿命化計画

A：概ね良好　B：部分的に劣化　C：広範囲に劣化　D：早急に対応する必要がある

岩村田小学校

今後想定される課題等①

通常学級児童数・教室数について

【学校運営】
- 今後、特別支援学級児童の増加により特別支援学級教室の増室が必要となる場合には、現在、少人数教室1室、学年室6室で使用している保有普通教室7室を転用するなどして教室を確保する必要がある。

今後想定される課題等②

特別支援学級児童数・教室数について

【児童数・学級数の傾向】
- 最近3年間は特別支援学級に入級する新入生が10人程度で推移しており、多い状況である。
- 来年度の新入生も10人を上回ることが見込まれ、学級数も2学級設けることを想定している。このため学校全体として、今年よりもさらに学級数が増加することも考えられ、他の用途の部屋を転用したり、教室に間仕切り等を施したりするなどし、教室を確保する必要がある。

【教室の確保】
- 自閉症・情緒障害の児童は、刺激に敏感で、一つの部屋をパーテーションで仕切って使うことは難しい。
- 知的障害の児童については落ち着いて学習できるが、自閉症・情緒障害も伴っている児童もいるため一概に言えない。
- 現在、医療的ケア児1人の学級と知的障害児の学級を1室でパーテーションで仕切って使っているが、使い勝手が悪い。
- 医療的ケアが必要な児童がもう一人増えるとなると、今の教室では広さが足りないため、教室の確保が必要となる。
- 特別支援学級の教室はまとまっていた方が、職員の連携も取りやすいし、子どもたち同士の交流も生まれやすい。

【教室の設備】
- 知的障害の児童の学級は教育活動の一環として水道が必要であるため、知的障害の児童の学級数が増えると、教室に水道が必要になってくる。現在はパーテーションで部屋を仕切って使っている教室が2室あるが、水道は共有している。

【その他】
- 岩村田小には、通常学級での学習になじめない児童が学習する教室（3F相談室を転用）があり、県費の加配職員が常駐している。この教室があるおかげで、特別支援学級に入級せず、通常学級で学ぶことができる児童もいるので、重要な役割を果たしている。

今後想定される課題等③

施設の経年（老朽化）について

- 特になし

佐久平浅間小学校

推計値（ピーク時）

【表①】

年度	第 1 学年			第 2 学年			第 3 学年			第 4 学年			第 5 学年			第 6 学年			通常		特支		全学級数	全児童数
	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数	学級数	児童数		
R6（実績）	4	123	7	4	122	6	4	137	7	3	103	4	5	144	7	4	129	3	24	758	5	34	29	792
R10	4	139	6	4	120	5	5	153	7	4	130	6	4	123	7	4	122	6	25	787	5	37	30	824

＊社会増減は考慮していない

現状の教室保有数（通常学級教室、特別支援学級教室として使用可能な教室の現状）

【表②】

	通常学級教室	特別支援学級教室	中間教室	少人数教室	外国語教室等	小会議室	被服室	合計
保有普通教室	24	2	1	2	3	0	0	32
保有少人数教室	0	3	0	0	0	1	2	6
合計	24	5	1	2	3	1	2	38

（注1）保有少人数教室の特別支援学級教室3室のうち2室は、1つの教室に間仕切り等を施して使用可能なため、2室としてカウント
（注2）保有少人数教室の被服室2室は、1つの教室に間仕切り等を施して使用可能なため、2室としてカウント

現状分析①

通常学級児童数・教室数について

- 現在の通常学級児童数は758人、24学級で、増加傾向である。（表①）
- 現状の保有普通教室は32室であり、通常学級教室で24室（各学年平均4学級）、特別支援学級教室で2室、中間教室で1室、少人数教室で2室、外国語教室等で3室を使用している。（表2）
- 今後、通常学級児童の増加により、通常学級教室の増室が必要になる場合には、保有普通教室のうち6室（中間教室1室、少人数教室2室、外国語教室等3室）について、全体最適を図る視点からやむを得ず、通常学級教室に転用可能と考えられる。よって、現在使用している24室と合わせて、30室（各学年プラス1学級程度）まで通常学級教室を確保できる。
- したがって、1教室当たりの児童数を県基準の35人と仮定し、今後の児童数の推計値により算出した通常学級数が30学級を超えるか否かが一つのポイントとなる。
- なお、通常学級教室については、さらに増設して31室以上とすることは、過大規模校となるため、市の方針として実施しない。したがって、今後、人口推計により通常学級教室数が30室を超えることが継続して見込まれた場合には、時間的な余裕があるうちに対策を検討しておく必要がある。

現状分析②

特別支援学級児童数・教室数について

- 現在の特別支援学級児童数は34人、5学級で、増加傾向である。（表①）
- 現状では、特別支援学級教室として5室（保有普通教室2室、保有少人数教室3室）を使用している。保有少人数教室3室のうち2室は、1つの教室に間仕切り等を施して2室分として使用している。（表②）
- 今後、特別支援学級児童の増加により増室が必要となる場合には、対象児童の特性に応じて、他の用途の部屋を転用したり、教室に間仕切り等を施したりなどして教室数を増やす必要がある（現状では、やむを得ず、小会議室1室、被服室1室（2室分）の転用が考えられる。）。

佐久平浅間小学校

現状分析③

施設の経年(老朽化)について

- 平成27年1月の建築以来、9年が経過。
- 令和2年3月に、児童数の増加に対応するための改修工事が完了(通常学級教室を増室)
- 令和4年8月に、児童数の増加に対応するための増築工事が竣工(通常学級教室を増室)
- 築年数は浅く、劣化状況評価によると、大規模な老朽化対策や長寿命化対策を講じる状況にない。

学校施設の老朽化状況

建物基本情報														構造躯体の健全性						劣化状況評価					
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)
						学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/㎟)	試算上の区分						
7	465	佐久平浅間小学校	校舎	1-1		小学校	校舎	RC	3	2,200	2014	H26	6	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
8	465	佐久平浅間小学校	校舎	1-2		小学校	校舎	RC	3	1,366	2014	H26	6	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
9	465	佐久平浅間小学校	校舎	2		小学校	校舎	RC	3	1,022	2014	H26	6	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
10	465	佐久平浅間小学校	校舎	3		小学校	校舎	RC	3	3,551	2014	H26	6	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
11	465	佐久平浅間小学校	校舎	4		小学校	校舎	RC	1	337	2014	H26	6	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
12	465	佐久平浅間小学校	体育館	5-1,5-2		小学校	体育館	RC	1	1,397	2014	H26	6	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100

R3.3佐久市学校施設の長寿命化計画

A:概ね良好　B:部分的に劣化　C:広範囲に劣化　D:早急に対応する必要がある

佐久平浅間小学校

今後想定される課題等①

通常学級児童数・教室数について

【通常学級教室・学校運営】
- 児童数の増加に伴い、通常学級教室が足りなくなってくる。
- 現在、少人数教室（2室）、中間教室、SDC教室、生活科教室、外国語教室を設けているが、通常学級児童・特別支援学級児童が増加すると、これらの教室を通常学級教室・特別支援学級教室として転用する必要があるため、学校運営に支障が生じてくる。

【理科室・音楽室】
- 理科室は2教室あり、専科の先生が2人いるが、空き時間がほとんどない状況で、教室もほとんど稼働している。これ以上学級数が増えると、理科室も足りなくなる。
- 音楽室も理科室ほどではないが、同様の状況が懸念される。

【体育館・運動場】
- 雨が降るとグラウンドが使えないため体育館を使用するが、授業に支障が生じる。
- 入学式については、全学年入り切らないため、1年生、6年生、保護者のみで行っている。
- 卒業式も、同様に、5年生、6年生、保護者のみで行っている。
- 全校集会も、1年生から6年生までが座って行っている。
- グラウンドを使用する体育の授業では、複数の学級の授業が重なった場合、グラウンドを北と南で半分に分けて使っている。

【その他の教育活動の場】
- プールの授業も1クラス週に1～2回程度である。
- 教育活動における畑のスペースが狭い。敷地内では確保できないため、田んぼや畑3か所の民地を借りている。
- 調理室も、家庭科以外の総合的な学習の時間でも使用する場合があり、使用頻度が多くなっているため、使えないことがある。

【駐車場】
- 駐車スペースが足りず、来客用の駐車スペースを確保するために、一部の職員は、ロータリーの空いているスペースに縦列駐車をしている。
- そのため、ロータリーにおいて、職員の通勤の導線と児童の登校の導線が重なり危険である。

【会議室】
- 現状において、保護者や外部の方と相談や打合せをする部屋がない。

【その他】
- 児童の登下校時は、送迎の車で混雑して危険である。
- 今後、児童数が増加するとバス通学の児童も増えるのでバスの台数を増やす必要があるが、運転手の人手不足等もあり、バスを確保できるかどうか心配である。

今後想定される課題等②

特別支援学級児童数・教室数について

【児童数・学級数の傾向】
- 今の自閉症・情緒障害の学級は1～2人増えただけで、学級数が増えてしまう状況である（例えば、特別支援学級の定員は8人であり、25人だと4学級となってしまう。）

【教室の確保】
- 児童数の増加に伴い、知的障害や自閉症・情緒障害の児童も増え、学級数が増加する。今後、広い教室を間仕切り等を施して2教室にしたり、他の用途の教室を転用したりし、工夫しながら教室を確保していく必要がある。

【その他】
- 佐久平浅間小には、通級指導教室のサテライト教室がある。この教室があるおかげで、通常学級で学習できる児童がいることから、適切な就学により早めの支援を行うことで、特別支援学級へ入級する児童数の減少を見込むこともできる。通級指導教室の存在は重要である。

佐久平浅間小学校

今後想定される課題等③

施設の経年（老朽化）について
➢ 特になし

中佐都小学校

推計値（ピーク時）

【表①】

年度	第 1 学年			第 2 学年			第 3 学年			第 4 学年			第 5 学年			第 6 学年			通常		特支		全学級数	全児童数
	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数 通常	児童数 特支	学級数	児童数	学級数	児童数		
R6（実績）	2	53	6	2	52	7	1	36	4	2	45	4	2	51	3	2	67	5	11	304	4	29	15	333
R11	2	55	5	2	43	4	2	58	5	2	40	4	2	55	5	2	53	6	12	304	4	29	16	333

＊社会増減は考慮していない

現状の教室保有数（通常学級教室、特別支援学級教室として使用可能な教室の現状）【表②】

	通常学級教室	特別支援学級教室	少人数教室	外国語教室	学年室	放送室スタジオ	合計
保有普通教室	11	2	1	0	1	0	15
保有少人数教室	0	2	0	2	0	1	5
合計	11	4	1	2	1	1	20

（注）保有少人数教室の外国語教室2室は、1つの教室に間仕切り等を施して使用可能なため、2室としてカウント

現状分析①

通常学級児童数・教室数について

- 現在の通常学級児童数は304人、11学級で、横ばい傾向である。
- 現状の保有普通教室は15室であり、通常学級教室で11室、特別支援学級教室で2室、少人数教室で1室、学年室で1室（3年東組で使用）を使用している。
- 今後、通常学級児童の増加により、通常学級教室の増室が必要になる場合には、保有普通教室のうち4室（特別支援学級教室2室、少人数教室1室、学年室1室）は、全体最適を図る視点からやむを得ず、通常学級教室に転用可能と考えられる。このことから、現在使用している11室と合わせて、15室まで通常学級教室を確保できる。
- したがって、1教室当たりの児童数を県基準の35人と仮定し、今後の児童数の推計値により算出した通常学級数が15学級を超えるか否かが一つのポイントとなる。

現状分析②

特別支援学級児童数・教室数について

- 現在の特別支援学級児童数は29人、4学級で、これまでの推移から増加傾向である。（表①）
- 現状では、特別支援学級教室として4室（保有普通教室2室、保有少人数教室2室）を使用している。（表②）
- 今後、特別支援学級児童の増加により増室が必要となる場合には、対象児童の特性に応じて、他の用途の部屋を転用したり、教室に間仕切り等を施したりするなど、諸室を工夫しながら使用して教室数を増やす必要がある（現状では、やむを得ず、外国語教室1室（2室分）、スタジオ1室の転用が考えられる。）。

現状分析③

施設の経年（老朽化）について

- 昭和59年3月の建築以来、40年が経過し、施設の劣化が進んでいる。
- 令和6年3月に、児童数増加に対応するための改修工事が完了（通常学級教室を増室）
- 築後40年以上経過しているため、将来、長寿命化改修を行う必要がある。

学校施設の老朽化状況

建物基本情報														構造躯体の健全性						劣化状況評価					
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分 学校種別	用途区分 建物用途	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	耐震安全性 基準	耐震安全性 診断	耐震安全性 補強	長寿命化判定 調査年度	長寿命化判定 圧縮強度（N/㎟）	長寿命化判定 試算上の区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）
13	453	中佐都小学校	校舎	3-1,3-2		小学校	校舎	RC	3	4,018	1984	S59	36	新	－	－	－	－	長寿命	C	C	C	C	C	40
14	453	中佐都小学校	体育館	4		小学校	体育館	RC	1	1,092	1985	S60	35	新	－	－	－	－	長寿命	C	C	B	A	C	61
15	453	中佐都小学校	校舎	7		小学校	校舎	RC	2	330	1998	H10	22	新	－	－	－	－	長寿命	B	B	B	B	B	75

A：概ね良好　B：部分的に劣化　C：広範囲に劣化　D：早急に対応する必要がある

R3.3佐久市学校施設の長寿命化計画

中佐都小学校

今後想定される課題等①

通常学級児童数・教室数について

【通常学級教室・学校運営】
- 児童数が増加し、1学年3学級になると通常学級教室が足りなくなってくる。
- 現状（1学年2学級）では、少人数教室や英語専用教室なども確保できていて大きな問題はない。
- 3年生は、36人で1教室は狭いので、間仕切りを外して2教室を1教室として使っている。また、6年生（東組：35人、西組32人）についても、児童の人数が多いため、手狭感がある。
- 今後、特別支援学級児童の増加により特別支援学級教室の増室が必要となる場合には、現在、少人数教室1室で使用している保有普通教室1室を転用するなどして教室を確保する必要がある。

【会議室】
- 現在、会議室専用の部屋を確保できない。

今後想定される課題等②

特別支援学級児童数・教室数について

【児童数・学級数の傾向】
- 特別支援学級の児童数は、増加傾向にあり、来年度の新入生によっては、さらに学級数が増える可能性がある。

【教室の確保】
- 状況によっては、広い部屋（学習室1）に間仕切り等を施して、2つの教室として使うことも検討していく必要がある。

【教室の設備】
- 特別支援学級教室は他の用途の部屋を転用して確保しているため、水道やガスなどの設備が整った教室を安定的に確保できない。（現在の特別支援学級教室も図工室や会議室を転用）

今後想定される課題等③

施設の経年（老朽化）について

- 施設や設備の劣化が進み、故障や不具合等が生じている。

（例）・4年生教室の窓側から雨漏りがあった。 ・蛍光灯の電気が接触不良でつかないことがある。 ・理科室の排水管がつまってしまう。など

- 施設や設備などに故障や不具合等が生じていて優先順位をつけて修繕等をしているが、施設自体は早急に大規模な改修を要する状態ではない。

高瀬小学校

推計値（ピーク時）

【表①】

年度	第1学年 学級数	第1学年 児童数 通常	第1学年 児童数 特支	第2学年 学級数	第2学年 児童数 通常	第2学年 児童数 特支	第3学年 学級数	第3学年 児童数 通常	第3学年 児童数 特支	第4学年 学級数	第4学年 児童数 通常	第4学年 児童数 特支	第5学年 学級数	第5学年 児童数 通常	第5学年 児童数 特支	第6学年 学級数	第6学年 児童数 通常	第6学年 児童数 特支	通常 学級数	通常 児童数	特支 学級数	特支 児童数	全学級数	全児童数
R6（実績）	1	26	2	1	20	4	1	30	4	1	24	2	1	25	4	1	28	2	6	153	3	18	9	171
R12	1	22	3	1	15	2	1	15	2	1	19	2	1	26	3	1	22	3	6	119	2	15	8	134

＊社会増減は考慮していない

現状の教室保有数（通常学級教室、特別支援学級教室として使用可能な教室の現状）

【表②】

	通常学級教室	特別支援学級教室	少人数教室	学習室	合計
保有普通教室	6	3	1	4	14
保有少人数教室	0	0	0	0	0
合計	6	3	1	4	14

現状分析①

通常学級児童数・教室数について

- 現在の通常学級児童数は153人、6学級で、減少傾向である。（表①）
- 現状の保有普通教室は14室であり、通常学級教室で6室（各学年1学級）、特別支援学級教室で3室、少人数教室で1室、学習室で4室を使用している。（表②）
- これまでの児童数の推移から、今後も児童数の減少が見込まれることから、教室が不足する状況にない。
- なお、このまま児童数の減少が続き、将来、2つの学年を足した人数が8人以下となった場合、複式学級になる可能性がある。（※複式学級とは2つのクラスを1つの学年に編成すること。）

現状分析②

特別支援学級児童数・教室数について

- 現在の特別支援学級児童数は18人、3学級で、減少傾向である。（表①）
- 現状では、特別支援学級教室を3室使用している。この3室は、保有普通教室3室を使用している。（表②）
- これまでの児童数の推移から、今後も児童数の減少が見込まれることから、教室が不足する状況にない。

現状分析③

施設の経年（老朽化）について

- 昭和57年2月の建築以来、42年が経過し、施設の劣化が進んでいる。
- 築後40年以上経過しているため、将来、長寿命化改修を行う必要がある。ただし、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されているため、現地での改修に課題がある。

学校施設の老朽化状況

建物基本情報													構造躯体の健全性						劣化状況評価					
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分 学校種別	用途区分 建物用途	構造	階数	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	耐震安全性 基準	耐震安全性 診断	耐震安全性 補強	長寿命化判定 調査年度	長寿命化判定 圧縮強度（N/㎟）	長寿命化判定 試算上の区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）
16	454	高瀬小学校	校舎	1	小学校	校舎	RC	2	1,541	1981	S56	39	新	－	－	－	－	長寿命	C	C	C	C	C	40
17	454	高瀬小学校	校舎	1-2,5	小学校	校舎	RC	2	217	1998	H10	22	新	－	－	－	－	長寿命	B	B	B	B	B	75
18	454	高瀬小学校	校舎	2	小学校	校舎	RC	3	2,158	1982	S57	38	新	－	－	－	－	長寿命	C	C	C	C	C	40
19	454	高瀬小学校	体育館	3	小学校	体育館	RC	1	1,000	1983	S58	37	新	－	－	－	－	長寿命	C	B	B	A	C	71

R3.3佐久市学校施設の長寿命化計画

A：概ね良好　B：部分的に劣化　C：広範囲に劣化　D：早急に対応する必要がある

高瀬小学校

今後想定される課題等①

通常学級児童数・教室数について

【学校運営】
- 児童数が減少しているが、小規模校（1学年1学級）で推移していけば、児童数が少ないことによる教育活動への大きな影響はない。
- 複式学級になってしまうと、教員の人数も大きく減り、広い校舎を管理すること自体も課題になってしまう。

【その他】
- 教員の人数が減ることにより、1人当たりの校務が増えてしまう。
- 休暇や出張などの際に代わりの教員が十分にいないため、教頭や校長が代わりに入ったり、支援員がサポートしたりしている。
- 専科の教員配置が少ないが、代わりに市費により学力向上支援加配職員や理科支援員を配置し、担任のサポートをしている。

今後想定される課題等②

特別支援学級児童数・教室数について

- 特になし

今後想定される課題等③

施設の経年（老朽化）について

- 施設や設備の劣化が進み、故障や不具合等が生じている。

（例）・水回りの劣化が進み、漏水のリスクが高い（漏水がないかチェックしている。）。 ・トイレの汚れが落ちず、悪臭がする。 ・更衣室前廊下、放送室、音楽室などで雨漏りがある。 ・児童玄関前の床が剥がれたり、割れたりしている。 ・体育館の壁の塗装が剥がれている。など

- 施設や設備などに故障や不具合等が生じていて、優先順位をつけて修繕等をしているが、施設自体は早急に大規模な改修を要する状態ではない。

浅間中学校

推計値（ピーク時）

【表①】

年度	第1学年			第2学年			第3学年			通常		特支		全学級数	全生徒数
	学級数	生徒数		学級数	生徒数		学級数	生徒数		学級数	生徒数	学級数	生徒数		
		通常	特支		通常	特支		通常	特支						
R6（実績）	7	241	18	8	277	16	7	236	9	22	754	6	43	28	797
R12	8	276	24	7	245	27	8	275	24	23	796	10	75	33	871

＊社会増減は考慮していない

現状の教室保有数（通常学級教室、特別支援学級教室として使用可能な教室の現状）

【表②】

	通常学級教室	特別支援学級教室	中間教室	多目的室	視聴覚室	増築後	合計
保有普通教室	22	6	1	0	0	6	35(29)
保有少人数教室	0	0	0	1	2	3	6(3)
合計	22	6	1	1	2	9	41(32)

(注1)合計の()内は、増築前現状の教室数
(注2)保有少人数教室の視聴覚室は、1つの教室に間仕切り等を施して使用可能なため、2室としてカウント

現状分析①

通常学級生徒数・教室数について

- 現在の通常学級生徒数は754人、22学級で、増加傾向である。
- 現状の保有普通教室は29室であり、通常学級教室で22室（各学年平均7学級）、特別支援学級教室で6室、中間教室で1室を使用している。
- 今後、増築工事により、保有普通教室6室を増室し、保有普通教室は35室となる予定である。
- 今後、通常学級生徒の増加により、通常学級教室の増室が必要になる場合には、保有普通教室35室のうち8室（特別支援学級教室6室のうち2室、増室する6室）について、全体最適を図る視点からやむを得ず、通常学級教室に転用可能と考えられる。このことから、現在使用している22室と合わせて、30室まで通常学級教室を確保できる。
- したがって、1教室当たりの生徒数を県基準の35人と仮定し、今後の生徒数の推計値により算出した通常学級数が30学級を超えるか否かが一つのポイントとなる。ただし、学校運営へ及ぼす影響等を考慮する必要がある。

現状分析②

特別支援学級生徒数・教室数について

- 現在の特別支援学級生徒数は43人、6学級で、増加傾向である。（表①）
- 現状では、特別支援学級教室として6室（保有普通教室6室）使用している。（表②）
- 今後、特別支援学級児童の増加により増室が必要となる場合には、対象生徒の特性に応じて、他の用途の部屋を転用したり、教室に間仕切り等を施したりするなど、諸室を工夫しながら使用して教室数を増やす必要がある（現状では、やむを得ず、多目的室1室、視聴覚室1室（2室分）、増築により増室する教材室3室の転用が考えられる。）。

浅間中学校

現状分析③

施設の経年（老朽化）について

- 平成20年7月の改築以来、15年が経過。
- 令和5年9月に、生徒数の増加に対応するための改修工事が完了（通常学級学級・特別支援学級教室、特別教室を増室）
- 令和6年7月に、生徒数の増加に対応するための増築工事に着工（通常学級教室等を増室）
- 劣化状況評価によると、大規模な老朽化対策や長寿命化対策を講じる状況にない。

学校施設の老朽化状況

建物基本情報														構造躯体の健全性						劣化状況評価					
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積（㎡）	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）
						学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度（N/㎟）	試算上の区分						
68	3711	浅間中学校	校舎	19		中学校	校舎	RC	4	4,227	2008	H20	12	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
69	3711	浅間中学校	校舎	20		中学校	校舎	RC	3	1,379	2008	H20	12	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
70	3711	浅間中学校	校舎	23		中学校	校舎	RC	3	3,946	2009	H21	11	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100
71	3711	浅間中学校	体育館	25		中学校	体育館	RC	2	1,833	2010	H22	10	新	－	－	－	－	長寿命	A	A	A	A	A	100

R3.3佐久市学校施設の長寿命化計画

A：概ね良好　B：部分的に劣化　C：広範囲に劣化　D：早急に対応する必要がある

浅間中学校

今後想定される課題等①

通常学級生徒数・教室数について

【通常学級教室・学校運営】
- 生徒数の増加に伴い、通常学級教室が足りなくなってくる。
- 学びの個性化、多様な学びが求められている中で、余裕教室がないと、教員の自由な発想による教育活動や分散活動などができない。
- 佐久市においても、探究の学びを中心に教育活動を行う中にあって、1学年7学級、8学級となると、動きが鈍くなってしまう。生徒数が少なければ、もっと様々な教育活動ができる。

【理科室・音楽室】
- 特に、理科室については、現状4室であるが、フル稼働している。生徒数が増加するともう1教室必要になってくる。
- 音楽室も、理科室と同様な状況が懸念される。

【体育館・運動場】
- 体育の授業は、社会体育館も使っているが、道路に出て移動しなければならないため、危険である。
- 卒業式については、全学年入り切らないため、3学年、保護者のみで行っている（R5は全校生徒で行った。）。
- 入学式についても、同様に、新入生、保護者のみで行っている。
- 全校集会の際には、生徒数が多いため、集合、解散に時間を要する。
- 運動場については、部活動で、野球、サッカー、陸上、時期によってはマーチングもやっており、事故が起きてもおかしくない状況である。

【その他】
- 普通教室棟と特別教室棟をつなぐ廊下が各階（各学年）に1本しかないため、生徒が集まり危険である。学年ごとに通る廊下を決めているが、特に、2階の中央廊下に図書館があり、生徒が集まり危険である。
- 生徒数が増加し、様々な活動において、生徒の密度が高くなることで、事故等の危険性が増し、安全面が心配である。

今後想定される課題等②

特別支援学級生徒数・教室数について

【生徒数・学級数】
- 小学校の特別支援学級の児童がそのまま中学校に上がってくるので、今後ますます特別支援学級の生徒が増え、学級数増加も予想される。

【教室の確保】
- 1学級8人だからといって、教室を間仕切り等で半分に分けて使うことは難しい。特に、自閉症・情緒障害の生徒は刺激に敏感で、互いの適切な距離を確保しないと、トラブルが起こるリスクが高まる。
- 特別支援学級は1階に配置し、自由な活動を行いたいが、1学年の通常学級数が増えたら、1つの特別支援学級教室を間仕切り等を施して教室を確保するか、上の階に設けなければならない状況である。

【教室の設備】
- 特別支援学級教室には、体験活動のため水道が必要であり、教室数が足りていれば良いという状況ではない。

今後想定される課題等③

施設の経年（老朽化）について

- 特になし

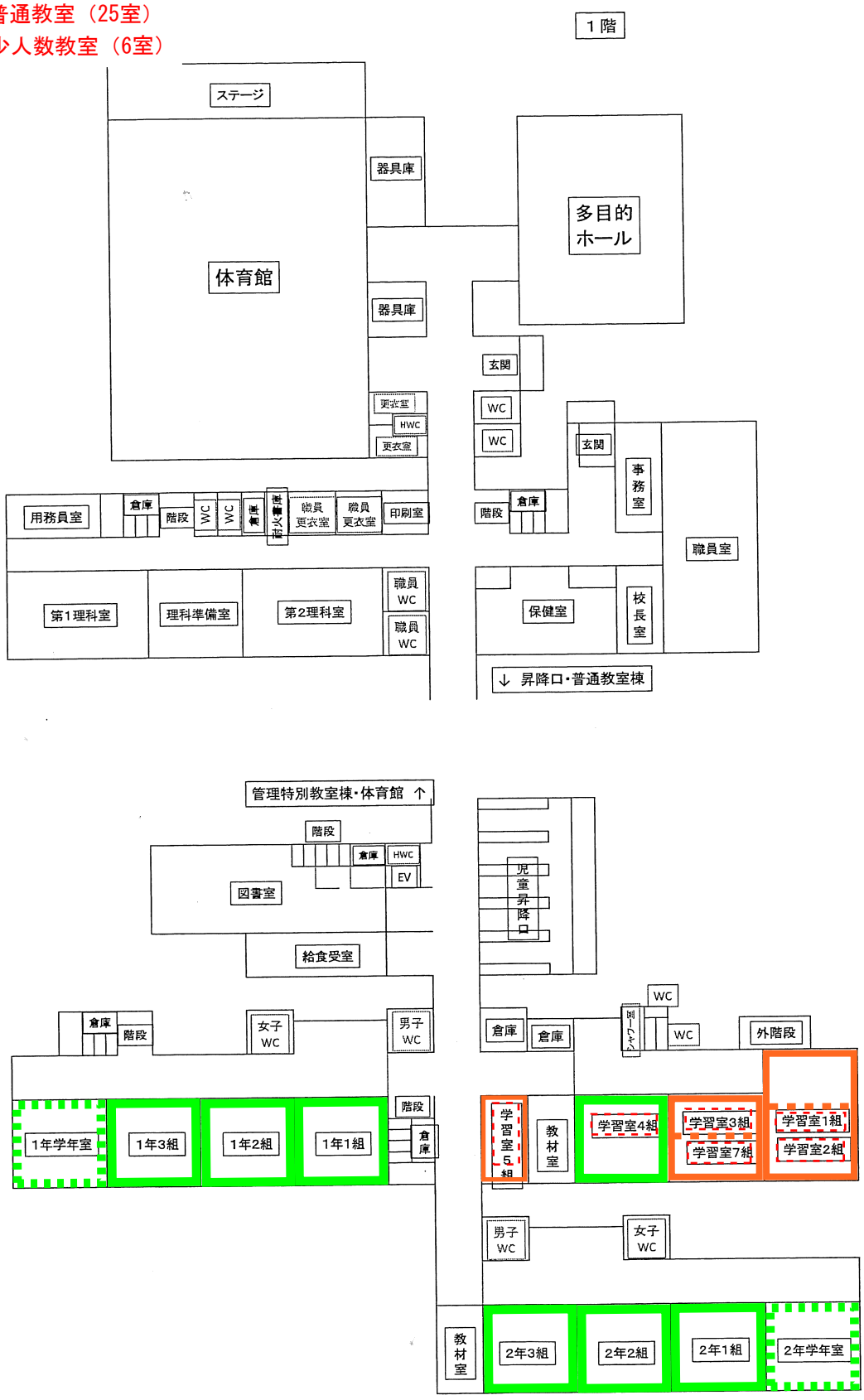
岩村田小学校教室配置図

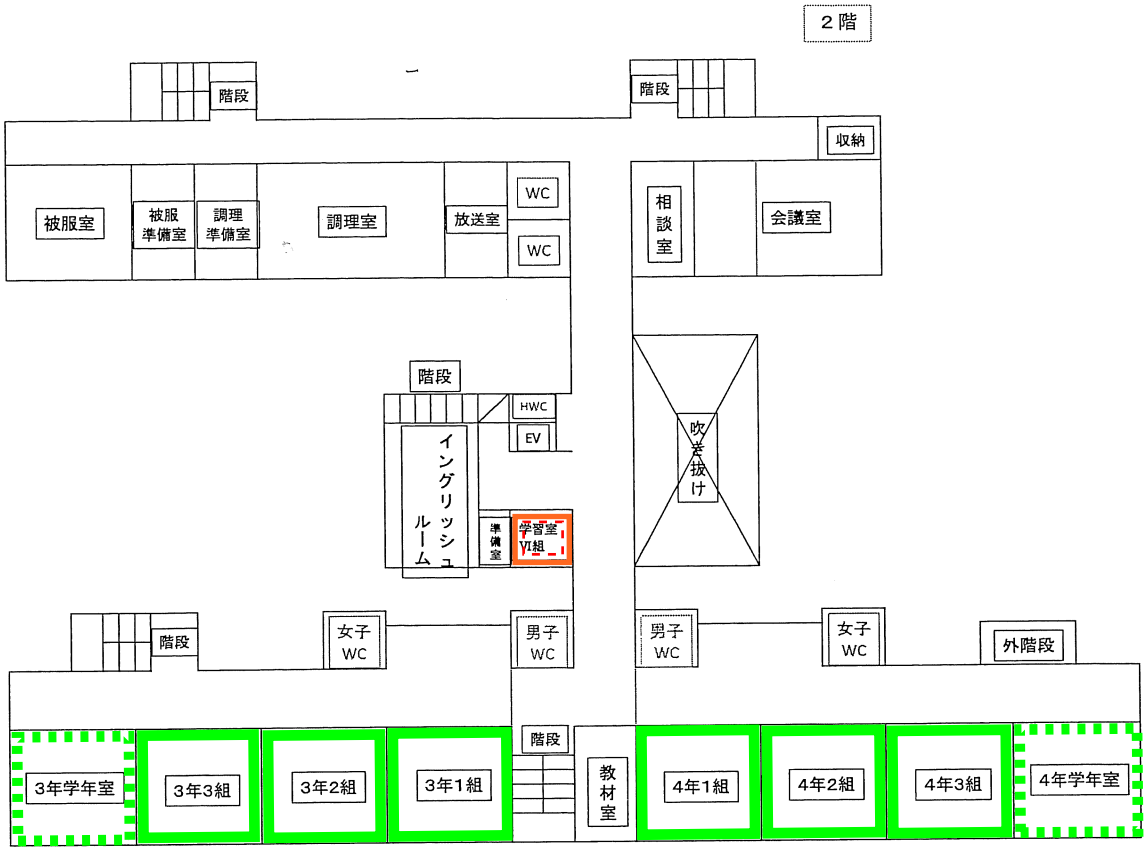
資料2-2

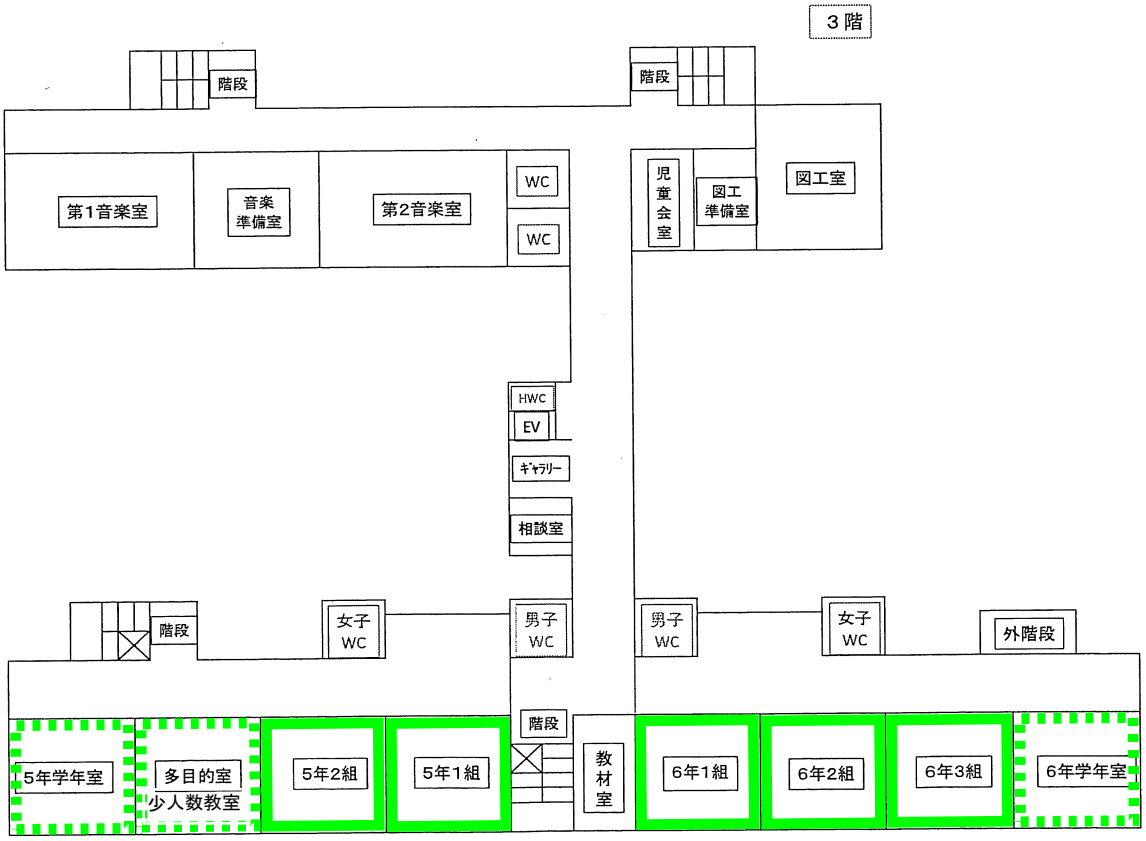
特別支援学級：学習室1～7組

保有普通教室（25室）

保有少人数教室（6室）




2階
階段
階段
収納
被服室
被服準備室
調理準備室
調理室
放送室
WC
WC
相談室
会議室
階段
HWC
EV
イングリッシュルーム
準備室
学習室VI組
吹き抜け
階段
女子WC
男子WC
男子WC
女子WC
外階段
階段
3年学年室
3年3組
3年2組
3年1組
教材室
4年1組
4年2組
4年3組
4年学年室

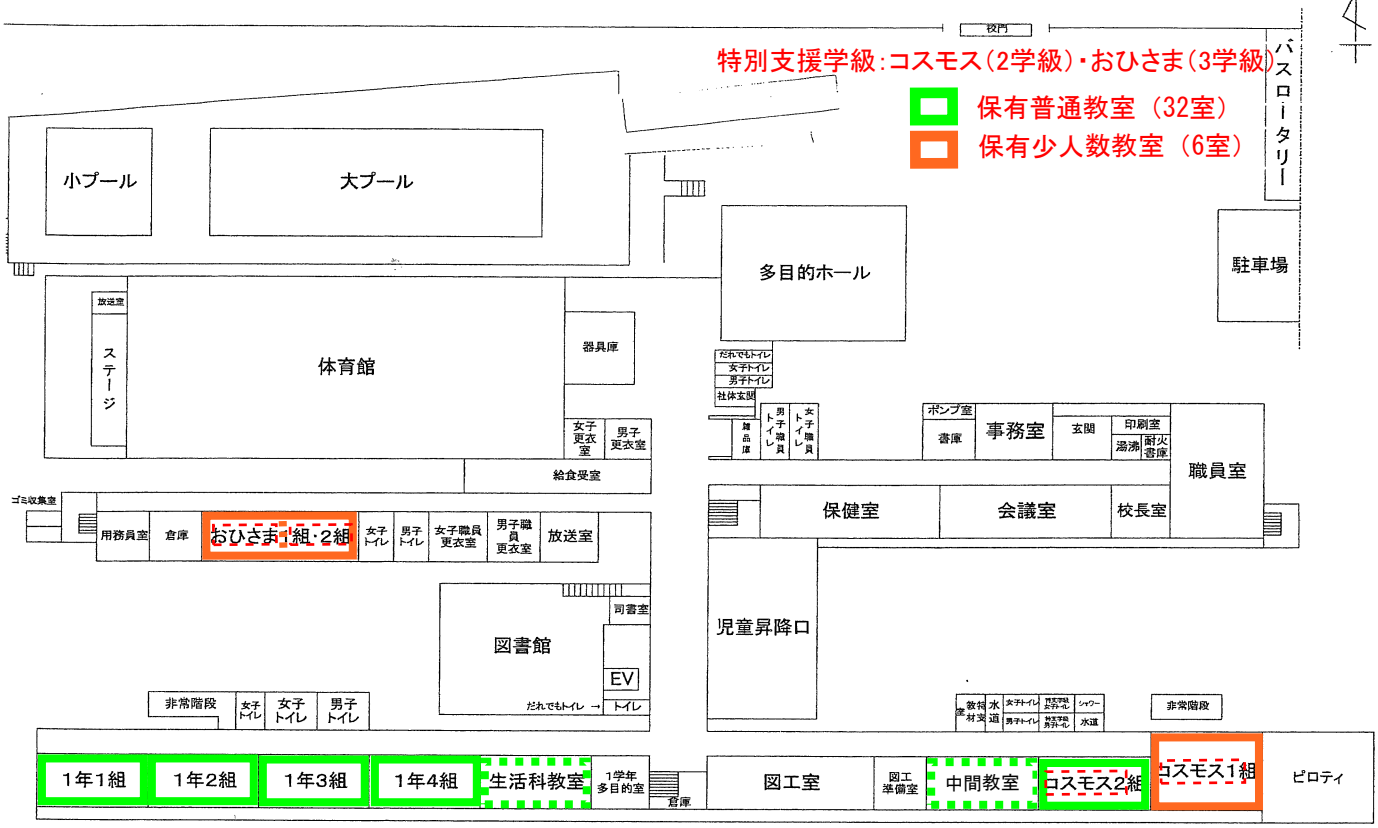

3階
階段
階段
第1音楽室
音楽準備室
第2音楽室
WC
WC
児童会室
図工準備室
図工室
HWC
EV
ギャラリー
相談室
階段
女子WC
男子WC
男子WC
女子WC
外階段
階段
5年学年室
多目的室
少人数教室
5年2組
5年1組
教材室
6年1組
6年2組
6年3組
6年学年室

令和6年度　佐久市立佐久平浅間小学校　教室配置図(R6,4,1)

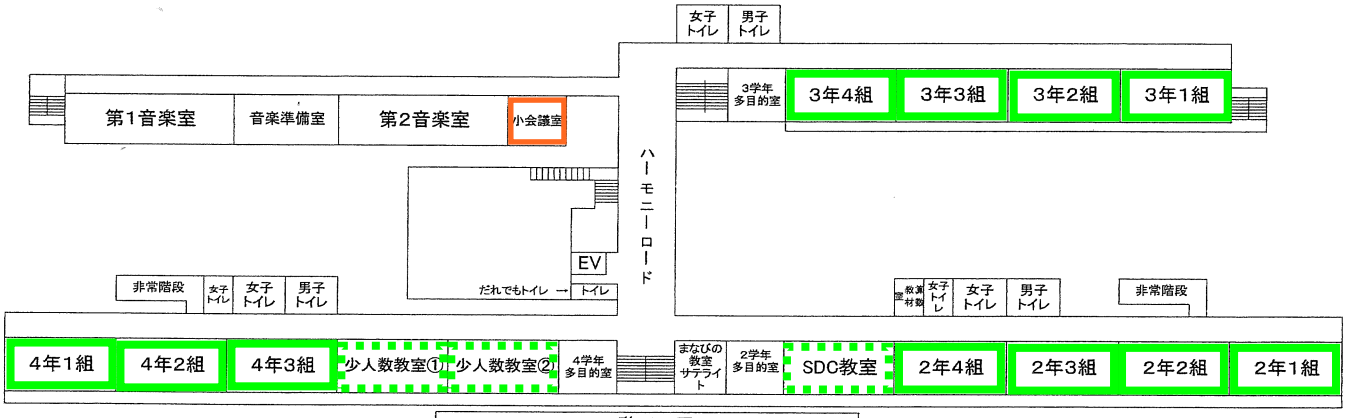
特別支援学級：コスモス（2学級）・おひさま（3学級）

保有普通教室（32室）

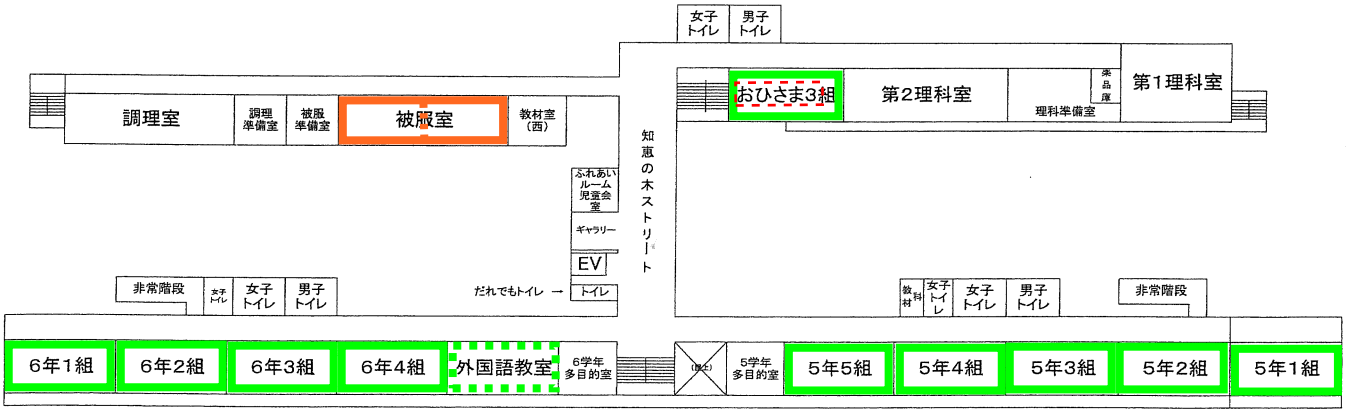
保有少人数教室（6室）



1階平面図



2階平面図



3階平面図

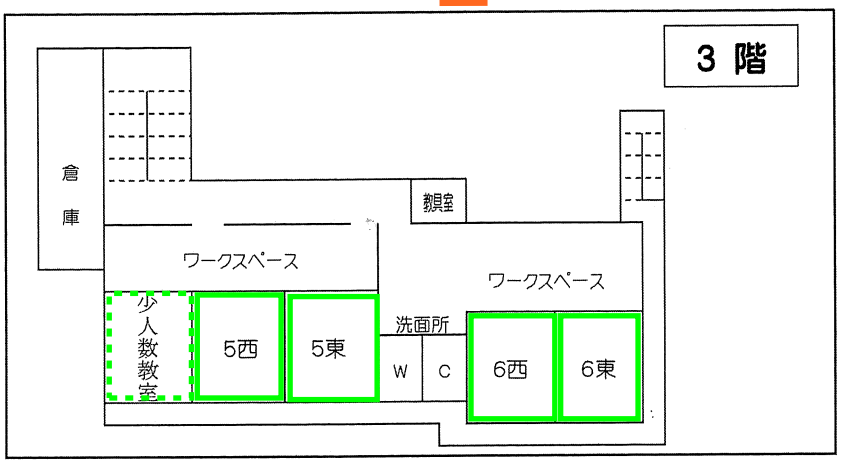
中佐都小学校教室配置図

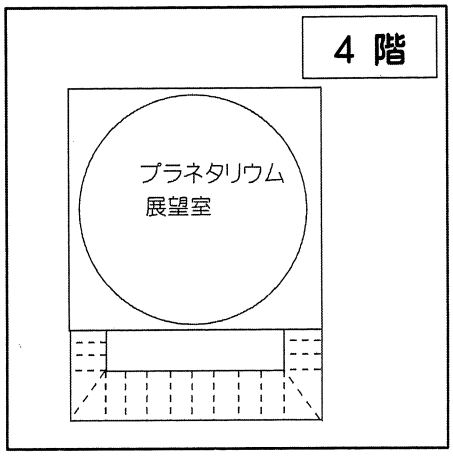
特別支援学級：ひまわり（2学級）・学習室（2学級）

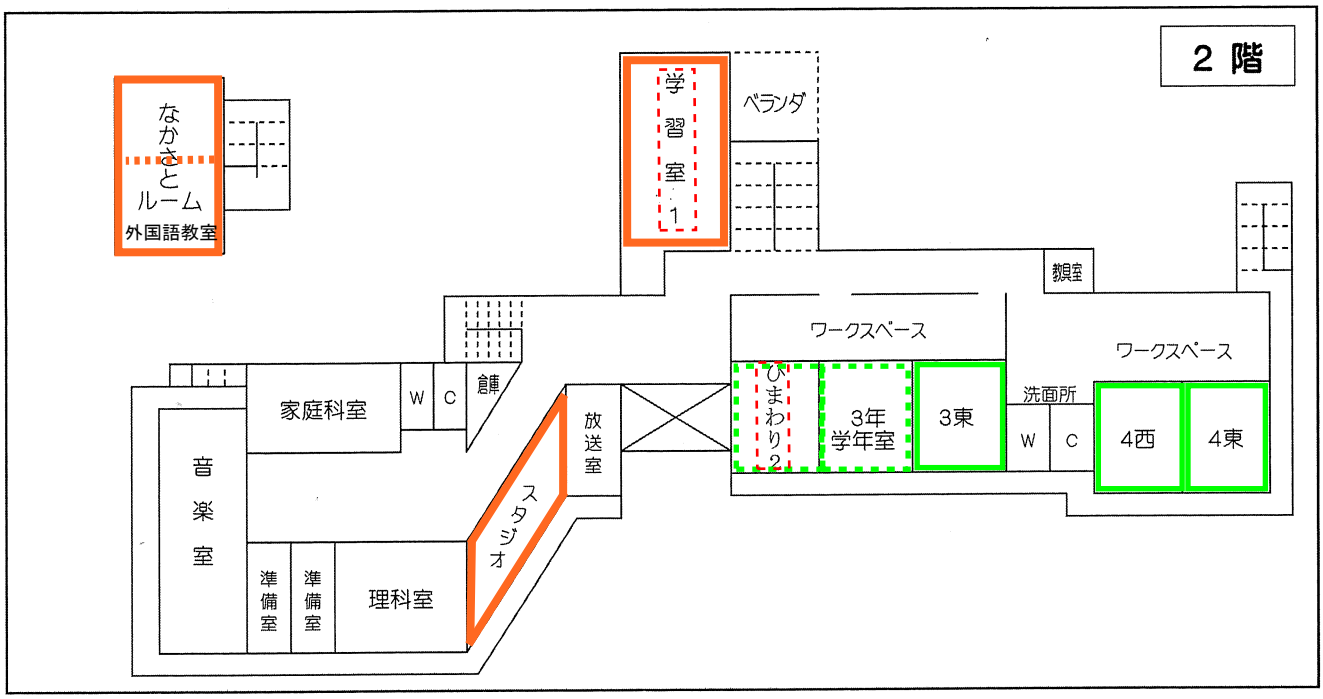
保有普通教室（15室）

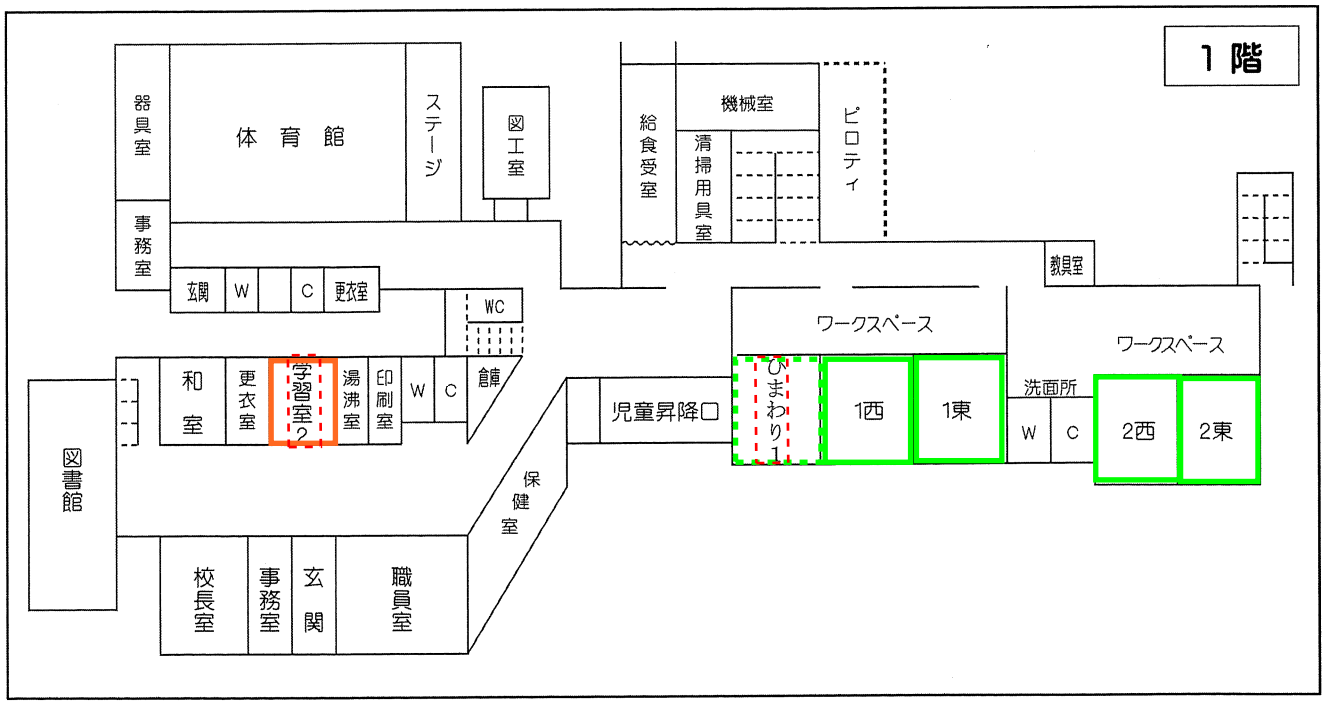
保有少人数教室（5室）

校舎配置図





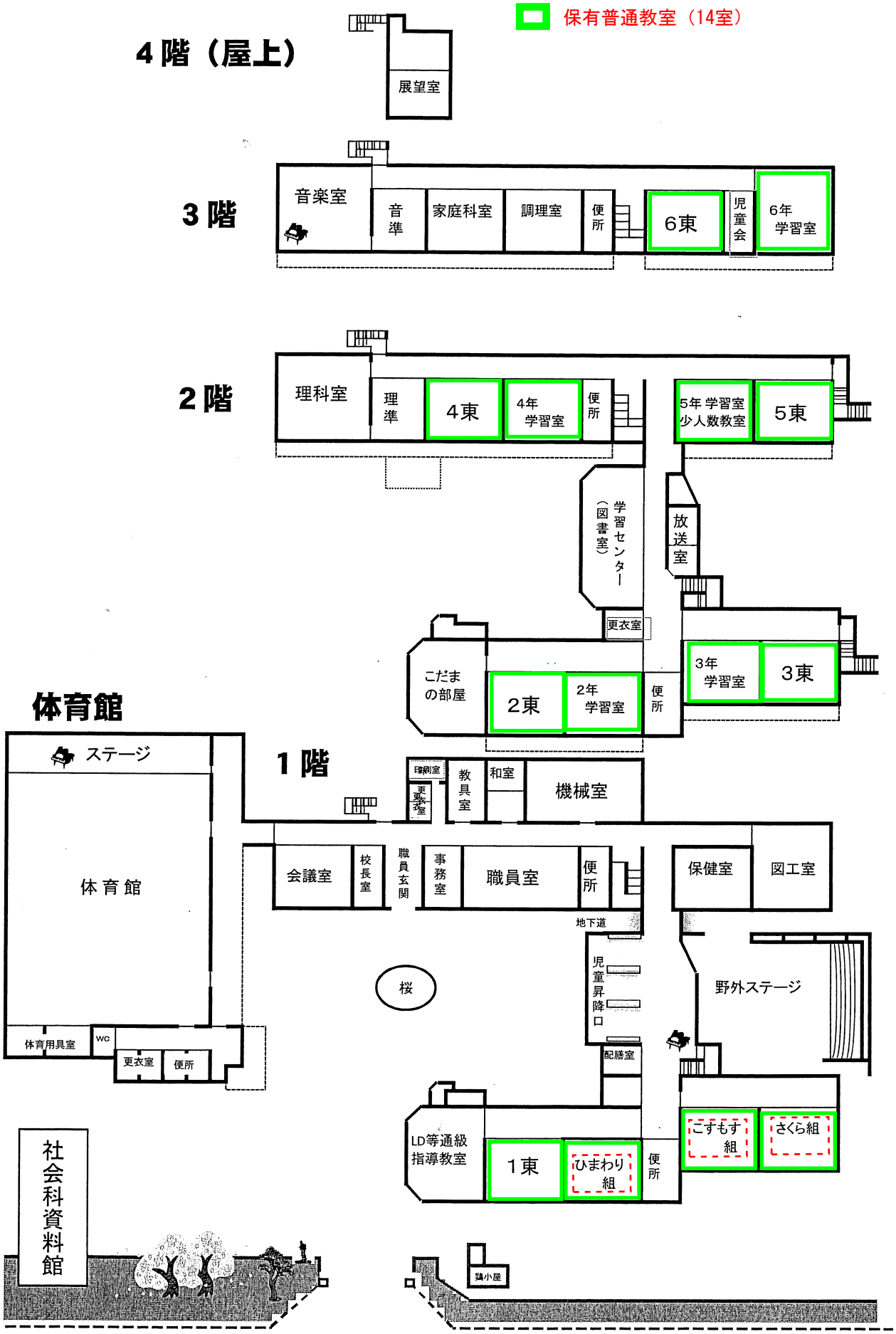




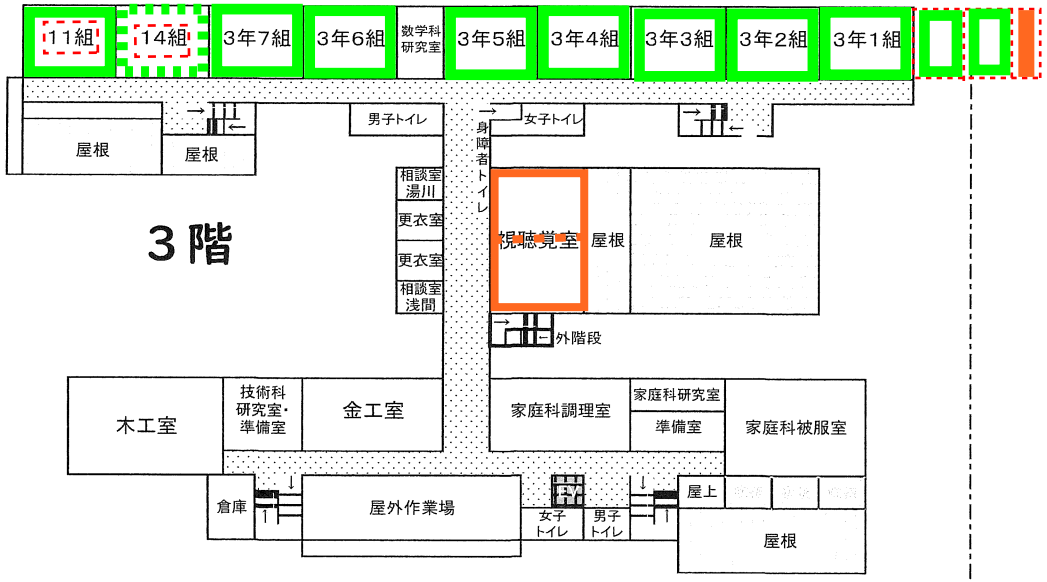
令和6年度　高瀬小学校校舎図

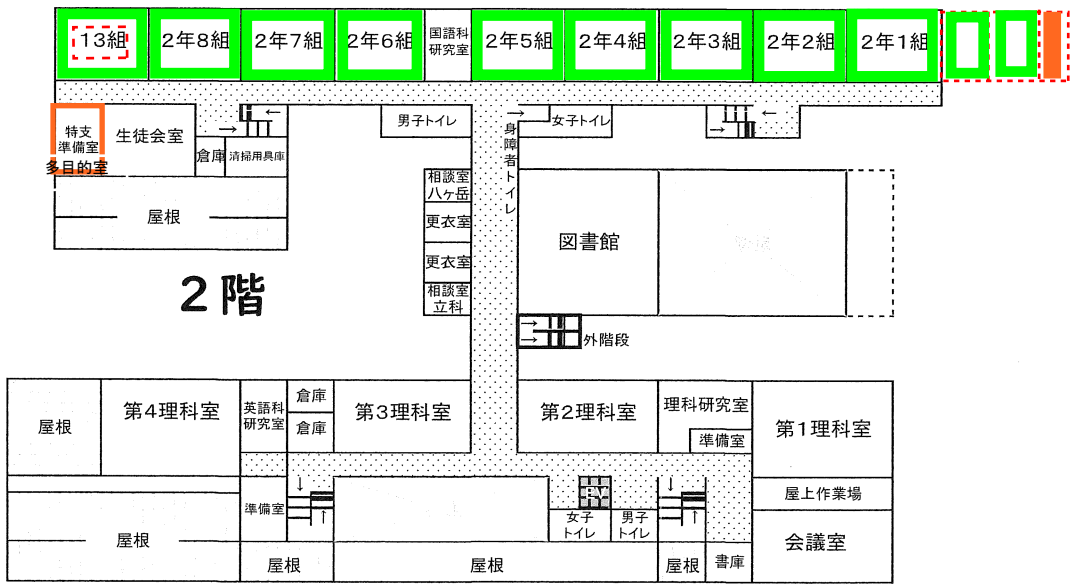
特別支援学級：ひまわり・こすもす・さくら（3学級）

保有普通教室（14室）



浅間中学校教室配置図



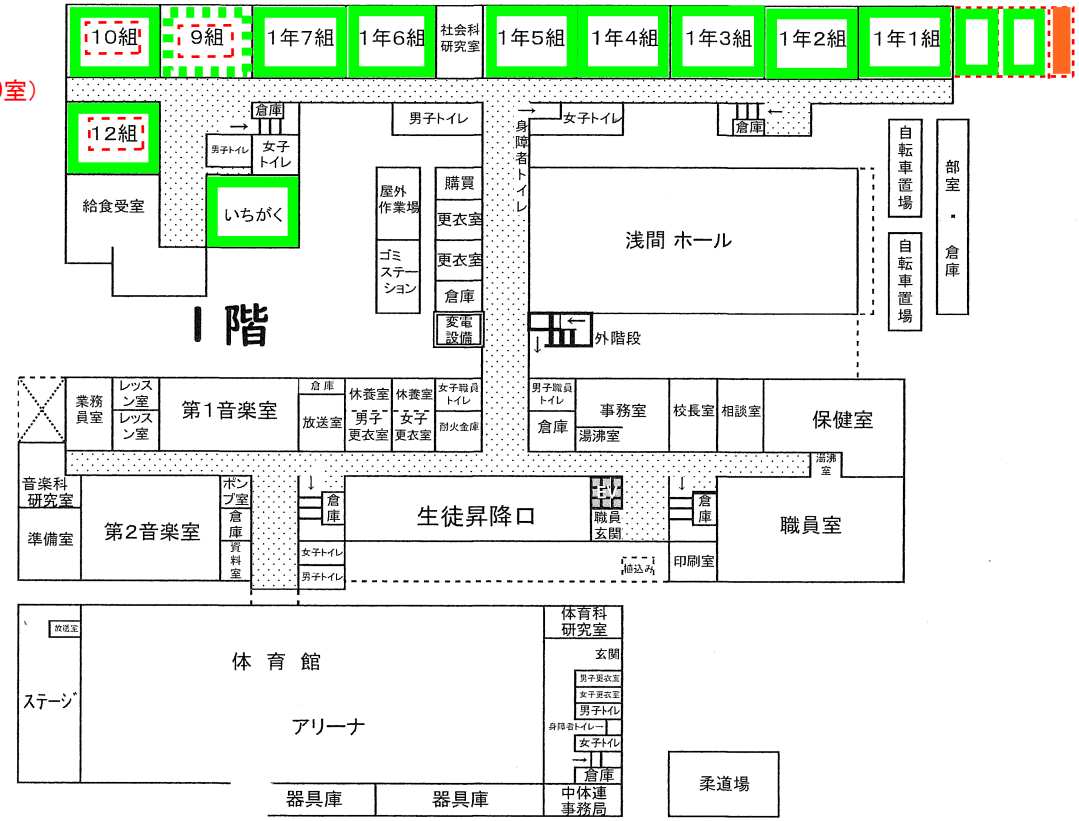


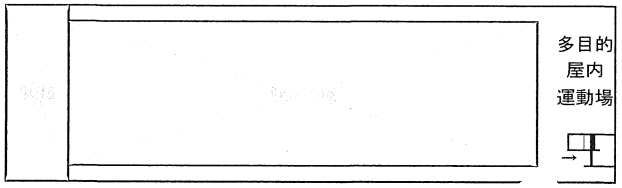
校舎・教室配置図

令和6年度

特別支援学級：9組～14組（6学級）
中間教室：いちがく

保有普通教室（35室）　増築による増室（9室）
保有少人数教室（6室）





体育館
2階

今後想定される課題等のまとめ

資料3

学校名	①通常学級児童生徒数・教室数	②特別支援学級児童生徒数・教室数	③施設の経年（老朽化）について
岩村田小学校	• 特別支援学級児童の増加により、学校運営に必要な教室が確保できなくなることが懸念される。	• 今後も特別支援学級児童の増加が見込まれ、必要な設備が整った環境や広い教室を確保する必要がある。	• 特になし
佐久平浅間小学校	• 教室の確保が困難になる。 • きめ細かな指導や多様な学びの場を確保できなくなる。 • 特別教室や体育館・運動場の利用に制約がかかる。 • 職員用駐車場、ロッカーなどが不足し、労働環境に影響を及ぼす。 • 児童が過密になることによる事故等のリスクが高くなる。	• 今後も特別支援学級児童の増加が見込まれ、教室の確保が困難になる。 • 必要な設備が整った環境の確保が困難になる。	• 特になし
中佐都小学校	• 普通教室の確保が困難になる。 • きめ細かな指導や多様な学びの場を確保できなくなる。	• 今後も特別支援学級児童の増加が見込まれ、教室の確保が困難になる。 • 必要な設備が整った環境の確保が困難になる。	• 老朽化により、施設や整備に部分的に故障や不具合等が生じているが、早急に大規模な改修を要する状態ではない。
高瀬小学校	• 教員数の減少により、教員一人当たりの負担が増える。	• 特になし	• 老朽化により、施設や整備に部分的に故障や不具合等が生じているが、早急に大規模な改修を要する状態ではない。
浅間中学校	• 普通教室の確保が困難になる。 • きめ細かな指導や多様な学びの場を確保できなくなる。 • 特別教室や体育館・運動場の利用に制約がかかる。 • 生徒が過密になり、事故等のリスクが高くなる。	• 今後も特別支援学級生徒の増加が見込まれ、教室の確保が困難になる。 • 必要な設備が整った環境の確保が困難になる。	• 特になし

今後想定される課題等の考察

学校名	今後想定される課題等の考察
岩村田小学校	通常学級児童数については、これまでの児童数の推移から急激な児童数の増加は見込まれず、教室が不足する状況にない。 特別支援学級児童数については、ここ数年児童数が増加しており、教室の確保が課題であるが、当面は余裕教室で対応が可能である。 したがって、児童数の推移に注視しながら、将来の学校のあり方を見据えた対応を検討していく必要がある。
佐久平浅間小学校	これまでの児童数の推移から、宅地開発等の影響により、今後、通常学級・特別支援学級ともに児童数の増加が見込まれ、近い将来、過大規模校化が懸念される。 したがって、児童数の推移に注視しながら、学校運営に支障が生じてくるタイミングを見極め、早期に学校のあり方を見据えた抜本的な対応を検討していく必要がある。
中佐都小学校	今後の児童数の増加が見込まれたため、令和5年度の改修工事により普通教室を増室した。 これまでの児童数の推移から、宅地開発等の影響により、今後、通常学級・特別支援学級ともに児童数の増加が見込まれるものの、急激な児童数の増加は見込まれず、学校規模も適正規模校で推移していくと予想される。 また、学校施設の老朽化も早急に大規模な改修を要するものではない。 したがって、児童数の推移に注視しながら、将来の学校のあり方を見据えた対応を検討していく必要がある。
高瀬小学校	これまでの児童数の推移から、今後、通常学級・特別支援学級ともに児童数の減少が見込まれるが、学校規模は小規模校で推移していくと予想される。 また、学校施設の老朽化も早急に大規模な改修を要するものではない。 したがって、児童数の推移に注視しながら、将来の学校のあり方を見据えた対応を検討していく必要がある。
浅間中学校	今後の生徒数の増加が見込まれたため、普通教室等を増室するために増築工事に着手している。 宅地開発等の影響により、今後の生徒数の推移によっては、将来、過大規模校となり、学校運営に支障が生じることが懸念される。 したがって、各小学校の児童数の推移に注視しながら、将来の学校のあり方を見据えた抜本的な対応を検討していく必要がある。